

議 事 録

1. 会議の名称	池田市史編纂委員会
2. 開催日時	令和8年2月18日(水) 午前14時00分～16時00分
3. 開催場所	池田駅前南会館 2号室
4. 出席者 ※委員長：◎ 副委員長：○	《委員》 小田 康德 (◎) 野高 宏之 (○) 田中 晋作 松永 和浩 〈事務局職員〉 藤井教育長 安原教育部長 前野生涯学習推進室長 細谷歴史民俗資料館長 高野主幹 豊田歴史民俗資料館主任学芸員 山本主事
5. 議 題	(1) 令和7年度の事業報告 (2) 令和8年度の事業予定 (3) 市制施行90周年記念事業について (4) そのほか
6. 議事経過	別紙のとおり
7. 開・非公開の別 ※非公開の理由	公開
8. 傍聴者数	0名

開 会

教育長 今年度 4 月に市史編纂事業が社会教育課から歴史民俗資料館に移管になり、そろそろ 1 年が経過しようとしているところ。移管になったことで、効果的に職務に当たることができるようになった部分と、事務の重複など改善の余地がある部分が見えてきていると報告を受けている。委員の皆様には市史編纂事業の取組や今後のあり方につき、忌憚のないご意見を頂戴し、ご審議いただけたらと考えている。

(1) 令和 7 年度の事業報告

事務局 今年度の市史編纂委員会の第 1 回目は令和 7 年 8 月 6 日に、第 2 回目が本日、令和 8 年 2 月 18 日に開催。資料収集、調査については継続で行った。地下書庫の現代資料は、断続的に整理作業を実施している。市史編纂と中央公民館連携講座として、9 月に講演会を実施した。申し込みは定員以上だったと聞いている。また、中央公民館の展示コーナーにおいて主催で写真パネル展を開催中。公文書選別については、令和 7 年度 2 回目の文書廃棄を先日終えた。今回の選別作業では文書量は多かったが、1 回目に比べて大幅に業務負担量が増加したわけではなかった。今後はどのような書類を歴史的公文書に選別しているかを、全庁的に説明する資料を作成し、公開することで行政文書を作成する職員の理解を養っていきたいと考えている。

委員長 公文書選別について全庁に向けて具体的な事実で例示するのがよい。事務局には説得力のある説明ができるように努力してほしい。

委員 講演会の会場の収容人数を増やすため、机はなしにしてもいいのではないかと。

事務局 次回の講師の委員と公民館と協議したい。

(2) 令和 8 年度の事業予定

事務局 来年度も今年度と変わらず事業を進める予定。編纂委員会については年 2 回開催予定、資料収集作業も現在作業継続中のものを進めていく予定。『広報いけだ』に「市史編纂だより」を掲載予定。先ほど話題にも出たが中央公民館との連携講演会の開催を予定している。そのほかダイジェスト版の編集の作業は実際にできるところを進めていければ。「市史編纂だより」については現在のところ令和 8 年 8 月号まで執筆者が決まっているが、それ以降の執筆予定が定まっていない状況なので、執筆の順番や、ご意見があればちょうだいしたい。

委員 執筆順が固定されると飽きられてしまうので、委員が執筆する合間に池田に関することを研究している方や、歴史民俗資料館の学芸員に書いてもらったらどうか。

事務局 委員以外の執筆者も考えながら委員と相談して決めていきたい。

(3) 市制施行 90 周年記念事業について

事務局 令和 11 年度の市制施行 90 周年に合わせて、ダイジェスト版の発行を考えている。仕様としては無償で、小学校 6 年生以上に配布、観光案内所や残部がある間は転入者の内希望者に配布する。構成としては編年で、文章+図版と考えている。内容は最低限の内容ではあるが、通史として完結しているものを目指す。各項目で深堀りしたいところを PC・

スマホ版にQRコードで誘導する。事務局で執筆等は行い、内容を編纂委員の先生方に監修していただきたいと考えている。PC・スマホ版は、随時追加できるような仕組みにし、同じく内容は通史で図版や動画を追加したものを考えている。刊行スケジュールについて令和8年度の間には計画とどの部分を通史として取り上げるかを、編纂委員の先生方と協議させていただきたいと考えている。令和10年度に本格的に業者の選定、発注などを経て、令和11年度には動画も公開していきたい。監修として項目などについてご意見を、編纂委員の皆様に来年度からお聞きしたいと考えている。

委員 通史的なものが受け入れられるかが心配。身近にあるものを題材に執筆したほうがいいのでは。若い人に意見を聞いた方がいいのでは。書名やキャッチフレーズ、編集方針など若い人の感性に訴えるものを考えてほしい。

(4) そのほか

事務局 資料調査・収集・整理・保管・研究の機能が、市史編纂事業の中にもあり、古文書歴史資料調査事業の中にもあり、一方資料館でも常設展特別展開催事業に、資料調査とか収集整理という機能がそれぞれ3つの事業に跨っている。移管により二つの事業の中に重複している部分が多いことが分かった。各々精査し、将来的にはもう少し整理が必要なのではないかと考えている。また、資料館はこれまで審議会を立ち上げずやってきたが、立ち上げていく必要があるかもしれないと考えている。職員の世代交代も迫っており、若い世代の資料館の職員がこれから市史の機能も支えていくときに効率化した方がいいと考えている。市史編纂事業についてかなり抜本的な見直しが必要になるかと考えている。市史編纂委員会のあり方も、資料館の大きな協議会の中でご審議いただくなど、将来的にはそういう形もあるかと考えている。

委員 市史編纂事業が移管になったタイミングで、よい機会だと思う。現場から声を上げて、市史編纂の名にこだわらず、資料の収集整理保管活用を柱にして、事業、仕事で整理していくようなやり方がいいのではないかと。よく考えてスリムで多様な市民の要望に応えられるような体制をどう作り上げていくかを是非考えていただきたい。

事務局 拙速に市史編纂事業の名称を変えるというわけではなく、よく検討した上で考えていきたいと思う。

閉 会